

伝音セミナー

日本の希少音楽資源にふれる

参加
無料

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターでは、

平成26年度下半期(10月～27年3月期)「伝音セミナー～日本の希少音楽資源にふれる～」を下記のとおり開催します。

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めてという方にも気軽に受講いただけるセミナーですので、是非、ご参加ください。

第5回 乗り物とレコード2

日時 平成26年10月2日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 大西 秀紀(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

内容

乗り物の進化は常に日本の近代化を支えてきました。よく「歌は世につれ」といいますが、人びとは夢や希望やさまざまな思いを乗り物に託し、やがてそれらは歌になり数多くのレコードに記録されました。前回の鉄道編に続き、今回は飛行機、自動車にまつわるレコードを中心にご紹介いたします。

第7回 東アジアにおける音楽の近代とナショナル・アイデンティティー—グローバル～ローカルの狭間で—

日時 平成26年12月4日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 時田 アリソン(日本伝統音楽研究センター所長)

内容

日本を始め、東アジアの国々は中国の楽器、記譜法、音楽理論の影響を受けながら、固有の音楽の古層を元にそれぞれの独特な音楽文化を作り上げた。近代には帝国主義がもたらしたコロニアル・モダンを被って東アジアの現代音楽文化が成り立った。西洋音楽に対するアコガレとともに近代国家の形成に伝統音楽の保存に努める。これが生む矛盾と可能性について考える。

第9回 門付けとしての三番叟まわし*

日時 平成27年1月8日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 野町 菜々子(京都市立芸術大学大学院音楽研究科
修士課程日本音楽研究専攻)

内容

新年や収穫期など、時節を定めて家々を訪問し祝福してまわる門付けという芸能があります。古くは平安時代後期に記録があり、中近世には多種多様な門付け芸が存在していました。近年ではあまり見られなくなったこの芸能の実例として、徳島の「三番叟まわし」を中心に紹介したいと思います。

第11回 国勢調査とレコード

日時 平成27年3月5日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 大西 秀紀(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

内容

平成27年は国勢調査の年です。この調査は国の最も重要な統計調査ですが、当初は国民にとって全くなじみのないものでした。そのため行政は浪花節、漫才、レビュー、流行歌、都々逸などの力を借りPRに努めます。今回は昭和5年に大阪で制作された「国調レコード」を中心に、国勢調査にまつわるレコードをご紹介いたします。

第6回 秋田県の「掛唄」に見る娯楽としての掛け合い歌

日時 平成26年11月6日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 梶丸 岳(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

内容

万葉の昔に行なわれた「歌垣」は即興の歌の掛け合いで男女が結婚相手を探した習俗として知られていますが、実際の掛け合い歌はしばしば男女関係なく娯楽として人びとに楽しまれています。今回は秋田県で歌われている「掛唄」のやりとりを娯楽という観点からご紹介いたします。

第8回 真宗高田派に伝わる天台系声明*

日時 平成26年12月18日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 鷹阪 龍哉(京都市立芸術大学大学院音楽研究科
修士課程日本音楽研究専攻・真宗高田派僧侶)

内容

高田派は今や、浄土真宗諸派の中では唯一、天台系声明を日常普通に唱える宗派です。なのに高田派僧侶にとって天台の声明は悩みのタネ。そのわけは、伝承(師匠からの口伝)と博士(楽譜)との齟齬にあります。今回は「四奉請」などの実唱を交えながら、天台系声明における口伝と書伝の問題を考えます。

第10回 日本の作曲と民謡

日時 平成27年2月5日(木) 午後2時40分～午後4時10分

講師 竹内 直(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

内容

明治以降の日本の洋楽創作史を辿っていくと、民謡を素材にした作品が数多く書かれていることに気づきます。ひとくちに民謡を素材にするといっても、作曲家によって、また時代によって、素材としての民謡の扱われ方は多様です。今回は、日本の作曲家の創作と民謡との係わりを幅広い年代の作品を聞きながら紹介したいと思います。

受付 当日会場で、午後2時受付開始

会場 京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1(新研究棟7階)
(京都市西京区大枝沓掛町13-6)

定員 各回につき、先着50名

主催 京都市立芸術大学

問い合わせ先 京都市立芸術大学 事務局 連携推進課(事業推進担当)
電話(075)334-2204